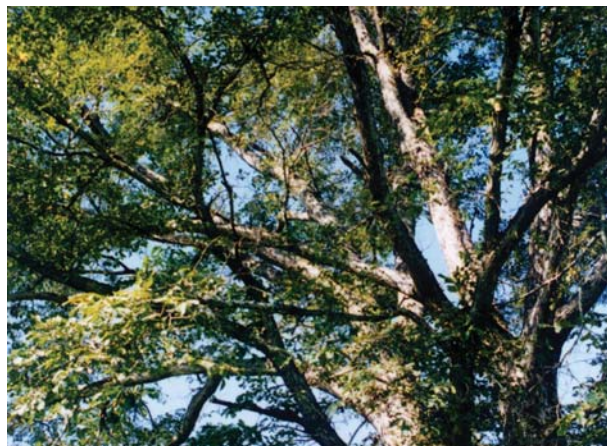


ハルニレ

Ulmus davidiana

ニレ科



ハルニレ

名前の由来

春に花をつけるニレの意。「ニレ」は「滑れ（ぬれ）」で皮をはがすとヌルヌルするからだという。別名、ニレ、アカダモ、エルム(英名から)。漢字名：春榆

形態的特徴

樹高30m、太さ1.5m以上になる、街路や公園にも植えられる。葉は倒卵形～倒卵状楕円形、長さ4～15cm、先は急にとがり、二重鋸歯縁、左右不同、基部くさび形、葉柄は4～12mm、互生する。花は前年枝の葉腋に赤褐色の小さな花を多数束生する、4～5月に葉よりも先に開花。果実は翼果は倒卵形で扁平、長さ10～15mm、先はくぼむ、6月成熟、緑黄色から褐色になる。

類似種との見分け方：オヒョウの葉は先が分裂することがある。ハルニレの冬芽は毛があるが、オヒョウは無毛。ハルニレの翼果の先はくぼむが、オヒョウの翼果の先はくぼまない



ハルニレの花

ハルニレの実

ハルニレの実。平たい翼の中に種がある



ハルニレの葉。先がとがり、ギザギザは大小二重。葉の基部は左右段違い



ハルニレの樹形。枝分かかれし主幹がほとんどない。枝先にいくと細くなる

ハルニレの樹皮。不規則に縦に裂ける

ハルニレの冬芽。枝はジグザグになる

ハルニレの枝先の葉

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期	■											
結実期			■									

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

平地の適潤～やや湿った肥沃な所に生える。

分布：国外分布は、千島、樺太、朝鮮、中国など。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域。

繁殖生態・寿命

4～5月に葉よりも先に開花。果実は翼果で倒卵形で扁平、長さ10～15mm、先はくぼむ。6月成熟、緑黄色から褐色になる。寿命300年。「豊頃町のハルニレ」は推定樹齢150年。

他生物との関わり

シータテハ、エルタテハ、コムスジ、カラスシジミ、ヒオドシチョウの幼虫の食樹。実はエブリス、コムドリなどに利



コムスジ。ハルニレが食樹
(標本-吉原利之氏所蔵)



ハルニレの実をついばむ
コムドリ

植栽関係

土壌：埴質壤土、適潤性～弱湿性、耐湿性、通気の悪い土でも耐える、pHは耐高アルカリ性、堅密度は中程度。中間～陽性木。樹齢50年で、直径28cm、樹高15m、根系の最

興味深い話

- 公園・街路樹。板材として建築、家具、器具に、また楽器やパルプ材などに用いられる。
- 夏になるとクワガタが樹液をなめに集まる。
- 十勝地方のアイヌ語で「チキサニ」という。
- アイヌ語名チキサニは「我ら・こする・木」で火をおこす木の意という。アイヌはこれで火きり杵(きね)とひきり臼(うす)をつくり、これで火をおこす。この世の始まりの時、ドロノキで火をおこそうとしたがうまくいかず、揉みくずが魔神と化すほどであった。次にハルニレで火を起こそうとすると、「アペフチ(火の婆、火の祖母神。十勝ではアペウチカムイとも)」が生まれた、という神話がある。またハルニレの薪は、火がつくとなかなか消えない。

配慮事項

樹齢50年で、直径28cm、樹高15m、根系の最大深度80cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は強い。移植は容易。挿

十勝地方では全域に分布。平地のやや湿ったところに多い。



「豊頃のハルニレ」豊頃町の木、北海道の巨樹、名木に指定されている。

用される。クワガタやスズメバチが樹液をなめに集まる。



ハルニレの樹液をなめるモンズメバチ(上)とミヤマクワガタ(右)



大深度80cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は強い。移植は容易。切り株からは萌芽することが多い。

- アイヌ語でニカフ(木の皮)とは特にニレ皮を指す。繊維として用いられており、弱いため単独で着物の素材には用いられていないが、とても暖かい。丈夫で着物の材料になったのは、近縁のオヒョウ(アイヌ語=アツニ)。
- 北欧伝説ではニレの木に魂を与えてエンペラと名付け、これが人類最初の女性となり、やがてエルムになった。



ハルニレの虫こぶと、中にいたアブラムシの仲間(円内)

し木はできない。根株から萌芽する。

参考文献

- 「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
- 「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
- 「新装版 樹木根系図説」荻住昇 誠文堂新光社 1987
- 「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亞璃西社 1990
- 「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
- 「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978
- 「天然林施業Q&A」石塚森吉ら 北方林業会編 pp.107-108

- 1988
- 「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981
- 「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
- 「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
- 「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館(編)、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004
- 「平成4年度 アイヌ民俗文化財調査報告書(アイヌ民俗調査Ⅱ)」北海道教育庁生涯学習部文化課編、北海道教育委員会 1993
- 萌芽更新を利用した広葉樹の施業 佐藤俊彦 光珠内季報 116 p:14~p:17 1999

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(鳥辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類